

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	神戸市立神陵台小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	2	2	3	3	3	3	1	17	25
児童数	62	72	83	82	86	87	3	475	

研究の概要

1. 研究主題

<p>くらしをきり拓く学力を求めて 基礎基本の学力を身につけることのできる子 人としてのあり方、生き方を考えることのできる子</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>実施学年及び教科を選択した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生 算数・総合 児童の理解の状況に差が出やすい教科等の学年であるため、中学生への円滑な接続を図るため ・5年生 算数・総合 児童の理解の状況に差が出やすい教科等の学年であるため

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ くらしを切り拓く学力を求めて 基礎基本の学力を身につけることのできる子 人としてのあり方、生き方を考えることのできる子</p> <p>研究の見通し(仮説) 授業形態を考え、授業方法を工夫して、少人数のグループで取り組めば、児童は確かな学力が身につく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数、理科、体育、音楽、図工は、2クラスを3グループに分割して、少人数授業に取り組む。 ・国語、体育は、同室複数指導を行う。 ・総合は、担任及び新学習システム推進教員、学級担任外教員で取り組む。
--------	---

平成15年度	<p>テーマ くらしを切り拓く学力を求めて 基礎基本の学力を身につけることのできる子 人としてのあり方、生き方を考えることのできる子</p> <p>研究の見通し(仮説) 授業形態を考え、授業方法を工夫して、少人数のグループで取り組めば児童は確かな学力が身につく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>〔6年〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数(学級担任及び新学習システム推進教員の学級等質2分割の少人数授業)を行う。 ・総合は、学級担任及び新学習システム推進教員による4グループの少人数授業を行う。
--------	--

	<p>[5 年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数は、学級担任及び新学習システム推進教員との同室・別室指導を行う。 ・総合は、学級担任及び新学習システム推進教員による4グループの少人数授業を行う。
--	--

平成16年度	<p>テーマ 暮らしを切り拓く学力を求めてテーマ テーマ 基礎基本の学力を身につけることのできる子 人としてのあり方。生き方を考えることのできる子</p> <p>研究の見通し(仮説 授業形態を考え、授業方法を工夫して、少人数のグループで取り組めば 児童は確かな学力が身につく。</p> <p>研究の内容・方法 [6 年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数(学級担任及び新学習システム推進教員の学級等質2分割の少人数授業)を行う。 ・総合は、学級担任及び新学習システム推進教員による4グループの少人数授業を行う。
--------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制

<p>研修委員会及び教育課程委員会と連携しながら、本校では、神陵台小学校学習システム改善研究委員会を毎月1回実施している。 構成メンバー-校長、教頭、推進教員、各学年担当、専科担当</p> <p>年度始めや夏期研修において、指導方法や教材研究について、共通理解する場を設け、全校で取り組めるように、情報交換会をしている。 また、校内で授業を見合う場を設定したり、オープンスクール(年に2回 各1週間)で、保護者や地域の方にも見ていただき、アンケートをとり評価を得ている。また、学校評議員会などでも意見をいただいている。</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>[児童から見た教科担任制]</p> <p>「先生が教科ごとに変わることは、よいか」 平成14年度 47% 平成15年度 70.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすいし、楽しく授業ができる。 ・たくさんの先生と話ができて、仲良くなれる。 ・一足早く、中学生になったみたいで気持ちよい。 ・先生によって、教え方が違うのでよい。 ・いろいろな先生のことわかってよい。 ・先生によって得意、不得意があるだろうから、くわしく教えてくれる。 <p>「一人の先生の方がよいか」 平成14年度 44% 平成15年度 17.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え方が違うのでやりにくい。 ・同じ先生のほうがしゃべりやすい。 ・一人の先生のほうが、自分の苦手なことがよくわかっている。 ・一人のほうが安心できる。 ・時間が空いたとき、その先生の教科でなかったら、わからないことを聞きにくい。 <p>平成15年 10月 児童の「教科担任制」に関する意識調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の内容がよくわかる 84% ・進んで手をあげる 42% ・話をよく聞いている 54% ・先生に聞きやすい 56% ・教科が好きになった 66% ・教科ごとに先生が変わったほうがよい 76% <p>「教科ごとに先生が変わったほうがよい」は、5月と比べ、およそ6ポイントあが</p>

っている。
〔教師から見た教科担任制〕
平成14年度、15年度

長所

- ・担任以外に見せる子どもたちの違った一面がわかる。
- ・6年生全体の子どもの性格や考え方が早くからわかり、学年の教師が同一歩調で子どもに接することができる。
- ・教材研究に時間をかけることができるので、工夫した授業ができる。
- ・学習の進度が順調に進む。

少人数授業での児童の感想「比の学習」カルピスの甘さ比べから、比を実感としてわかるように仕組んだ学級等質2分割少人数授業の取組より

最初は、ただ飲むだけだと思っていたけど、ちゃんと比の勉強をしながらカルピスを飲んだのは「いいなあ」と思った。塾で比の学習はぜんぜんわからなかったけど、とてもわかってうれしかったです

カルピスの授業で思ったことは、何もないより、物を使ってやる方がすごくわかりやすかったです。物を例にした問題では、考え方が増えてよかったです。

私は、やり方(解き方)など、友だちに説明してもらい納得した上だったので、よくわかりました。でも、計算だけで、味の濃さがわかるということは、いろいろなものでも、こさを比で表すことができ、改めて算数ってすごいなあと思いました。とても楽しい授業でした。

私は算数が苦手です。少人数でやったほうが、とてもよくわかります。カルピスなんかを使って、本物を使ってみたら、とてもわかりやすくて、算数が少しは面白くなってきました。

この学習では、9割以上の児童が、よくわかった、楽しかったと感想では書いていた。

短所

- ・学級でもう少し話し合いたいときも、自由に時間が使えないときがある。
- ・行事が詰まったり、時間割を変更せざるを得なくなったりしたときの時間割調整に苦労する。
- ・教科担任制以外の教科の進度にしわ寄せが来る場合がある。

「成果」

6年生になると学力面、生活面など、担任一人では解決できない問題が質的にも量的にも多くなる。そんなときに、一人で問題をかかえこまないように学年の打ち合わせに子どもの育ちや課題を交流する場を必ず週に一度はもった。その結果、学年チームとしての協力体制ができ、さまざまな問題を解決することができていった。

ある場面では悪くとらえてしまう児童も、ある場面ではよい表れをする場合がある。学年のみならず、専科などの先生たちとも情報交換し合う中で、多面的な児童理解ができるようになり、教師と児童の関係性、児童同士の関係性がよい方向に向かうようになった。

基礎基本の充実を図ることが、以前よりできるようになった。

〔少人数授業の取組―上記の「比の学習」の児童の感想〕

中学へのスムーズな適応ができるようになった。〔中学の先生との交流会の場での意見〕

学級の枠を超えた弾力的な指導方法の改善に努めることができた。

2. 今後の課題

「課題」

学力向上に関しては、システム推進教員および担当教員の創意工夫や努力によるところが多い。さらなる、児童のための教材研究や指導方法の改善に努める必要がある。

年間計画を綿密に立てておく必要があるとともに、時間割がある程度、融通のきくものにしていく必要がある。その兼ね合いを考えながら、臨機応変な時間割の組み方を工夫する必要がある。

児童は、教科担任制に慣れるまで時間がかかる。また、学級担任と児童のつながりが希薄になる場合がある。それらのことを含めて、児童のかかわりを違った形で強めていくために、情報交換および情報共有を怠らないようにしていく必要がある。

評価規準は、それぞれ考えているが、さらに指導と評価を一体化した評価の研究をしていく必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

- * 算数・言葉・漢字学力診断テストー 5月
- 算数領域別診断テスト 5月
- 算数領域別診断テスト 2月
- 国語、算数、理科、社会の単元ごとの診断テスト 単元終了後

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 7月ー千葉県、1月ー長崎県より、教科担任制の視察において、授業公開とその後の情報交換会
- * 11月28日ー神戸市における新学習システム推進教員研修会にて、本校の教科担任制の取組を発表
- * 兵庫教育大学附属図書館より、教育実践の紹介の依頼に基づき教育実践資料データベースに掲載予定ー3月

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		